

香港の職場でのバイオレンスとドメスティックバイオレンスについて アメリア・ロー（香港）

昔、女性が CEO（最高経営責任者）になるのは夢のまた夢でしたが、香港では幸運にも女性 CEO という概念はもはや夢ではありません。例えば、スタンダード・チャータード銀行ウーマン・オン・ボーズの 2012 年ハンセン指数レポート¹⁾によると、2012 年のハンセン指数に選ばれている企業の 634 の取締役職のうち 9% が女性です。しかし、能力があり、高所得者で、コミュニティの中で重要人物として認められているにもかかわらず、悩みや心配事を抱える女性がいるのはなぜでしょうか。そのひとつの原因は、職場と家庭でのハラスメントにあります。

香港の機会均等委員会とその他の複数の NGO が行った 12 カ月にわたる調査結果が最近公表されましたが、それによると、ヒアリング対象者の約 2 割がこれまでに最低 1 回は性的被害を受けたことがあるといます。この被害には、下品な視線で凝視される、性的なジョークやほのめかし、着衣や身体に無理矢理触られる、といった嫌がらせが含まれています。現在、香港には性差別防止条例がありますが、社内で性的被害防止に関するルールや方針を掲げている企業はごくわずかです。私自身、裁判所でのインターンシップ期間中、ある裁判官に「職場で被害を受けた人の多くが、失業を恐れるあまり、身を縮めてまるで嫌がらせはなかったかのように振る舞っていた。」と聞いたことがあります。何人かは、被害を報告しても真に受けてもらえないだろうと、そして「トラブルメーカー」だというレッテルを貼られ、仕事を失うのではないかと恐れて、届け出なかったということです。誰も頼ることができないと感じているこのような弱者を保護する対策がもっと採られるべきだと思います。法整備の強化がそのひとつの手段で、若者の教育がもう一つの方策です。

香港を含め、多くの文化では、家庭とは安全な聖域、嵐から守ってくれる城であると考えられています。しかし、不幸にもドメスティックバイオレンスに苦しむ女性にとってそれはあり得ません。2012 年の香港警察署のレポートには、ドメスティックバイオレンスの刑事事件が 2157 件発生したこと、その数は 2006 年の発生件数と比較して 19.1% の増加率であることが報告されています。香港のドメスティックバイオレンス防止条例において、2008 年に修正された第 189 条は、香港のドメスティックバイオレンスに関する意識啓発に役立ちました。条例では、配偶者暴力の加害者に対して暴力行為の禁止や追放命令を出すことができます。しかし、この規定は十分適用されていません。なぜなら、女性が暴力の被害を報告することがタブー視されているからで、ましてその相手が家族であればなおさらです。私が面談した女性被害者の中には、幼いころから「家庭内の恥を外に出してはならない」と教えられてきていて、暴力被害を口外しないように強要され、無力感にさいなまれたと打ち明ける人もいました。それならば、もし、ある女性が配偶者から被害を受け、彼女の義父母などの身内がその虐待を見て見ぬ振りをしたとしたら、家族以外のどこに彼女は助けを求めればよいのでしょうか。

女性が家庭と職場での暴力の被害者になりやすくしている要因は何でしょうか。香港中文大学アジア太平洋研究所の調査によると、香港の暴力事件の発生の増加要因は、越境結婚の増加、失業、家族内のストレス、妊娠などであるといえます。実際、2007 年の調査では、香港男性との結婚を機に中国本土から移住してきた女性は精神的虐待、性的関係の強要、肉体的暴力に対して一層脆弱であることが分かっています。

被害者になるリスクをどのようにしたら軽減できるのでしょうか。法律家の卵として私

は、知識は力だと信じています。自分自身そして大切な人を守るために、自国の暴力防止に関する法律知識を深めること、どのような法的機関に助けを求めればよいかの情報を持つことが必要だと思います。そうすることによって、職場などで暴力に遭遇した時に必要なサポートを受けることができるのです。

ⁱ 香港株式市場の相場動向を表す株価指数